

第53回日本リハビリテーション医学会 学術集会を開催して

三上 靖夫

京都府立医科大学大学院 リハビリテーション医学

第53回日本リハビリテーション医学会学術集会は、平成28年6月9日(木)から3日間にわたり、本学副学長の久保俊一先生を会長として、国立京都国際会館およびグランドプリンスホテル京都において開催されました。これまでの学術集会では過去最高となる7500名に及ぶ方々にご参加をいただきました。運営は本学リハビリテーション医学教室が中心となり、整形外科学教室ならびに附属病院リハビリテーション部の協力を得て行いました。

メインテーマは「軌轍と融和」としました。先人の「軌轍」すなわち轍(わだち)から基本的な知識と技能を学び、臨床各分野との協調、多職種間の連携による「融和」を図ることで、リハビリテーション医学をさらに飛躍させるというねらいがありました。会期中、メインホール前には清水寺貫主 森清範様による「軌轍と融和」の書が展示され、多くの参加者の関心を集めました。

初日には、前理事長の水間正澄先生に基調講演「リハビリテーション医学の課題」をご講演頂きました。会長講演では、わが国および世界のリハビリテーションの歴史を概説し、メインテーマである「リハビリテーション医学の軌轍と融和」についてメッセージを発信されました。2019年6月に神戸で開催される第9回国際リハビリテーション医学会(ISPRM)を記念してISPRM2016との合同シンポジウムを開催いたしました。海外招待講演には、世界を代表する14名の先生方をお招きしました。

2日目には、宗教学者の山折哲雄先生に、文化講演として「超高齢社会における生き方」をご講演いただきました。特別企画として、華道家元池坊次期家元 池坊専好氏にいけばなの実演をしていただきました。さらに、世界遺産清水寺の貸し切り夜間特別拝観を行い、美しい京の夜景とライトアップされた清水寺を楽しんでいただきました。

最終日には、熊本・大分地震におけるJRAT(大規模災害リハビ

リテーション支援関連団体協議会)の緊急活動報告会を企画し、初期活動に携われた3名の先生方に講演していただきました。

3日間で15の特別講演、86の教育講演、44のシンポジウムとパネルディスカッション、37の共催セミナー、そして12のハンズオンセミナーなどを企画し、各分野の第一人者の先生方にご講演をいただきました。

本学術集会では、リハビリテーション科医を中心として、関係の深い各科医師や歯科医師に加え、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士、看護師、ソーシャルワーカー、栄養士、先進的技術開発者、行政職などの関連職種の方々にも多数参加いただきました。一般演題には、会員ならびに関連専門職の皆様からそれぞれ1014演題、814演題を採択させていただきました。各会場では活発な討議が行われ、臨床や研究につながっていただけたと思います。

日本整形外科学会、日本運動器科学会、日本臨床整形外科学会、回復期リハビリテーション病棟協会、日本心臓リハビリテーション学会、日本摂食嚥下リハビリテーション学会、日本義肢装具学会、日本神経学会、日本脳神経外科学会、日本障がい者スポーツ協会、日本RAのリハビリテーション研究会、PT、OT、ST、PO協会、京都リハビリテーション医学研究会、京滋摂食・嚥下を考える会など、多くの関連学会・協会との合同企画は、全ての参加者に満足いただけたと思います。

展示会場では、ロボット、薬物療法、生体物理刺激療法、義肢装具、摂食嚥下、介護福祉用品、未来を拓く展示などのテーマ別に150を超える企業、教育研究機関、行政機関およびその他の団体によって、最新の情報や技術を披露していただき、日々の臨床や産学連携に結びつく機会ができたと考えております。

最後に、多大なるご支援を賜りました近畿地方会の諸先生方に、この場を借りて御礼申し上げます。

